

「熱の宅配便」 排熱をコンテナで配送 トランスヒートコンテナ

トランスヒートコンテナは、熱の供給元(焼却施設、工場等)から排出された排熱をタンクに蓄え、熱の利用先(病院、オフィスビル等)までコンテナで搬送し、その蓄えられた熱を給湯や空調のエネルギー源として利用する技術です。これからの時代のニーズは、排熱の有効活用です。トランスヒート®コンテナは、従来、捨てられていた低温排熱を遠く離れた複数の施設に必要な時に、必要な熱エネルギーとして供給できる、「熱の宅配便®」です。

特長

■大幅なCO₂削減

排熱利用により、化石燃料使用量が削減でき、CO₂も大幅に削減できます。
(標準タンク1台/1回で最大約350kgの削減可能)

■低温排熱の有効利用

従来、捨てられていた焼却施設、工場等の未利用排熱を利用先の給湯、空調等のエネルギー源に有効利用できます。

■潜熱蓄熱材(PCM)を採用(2種類)

食品や食品添加物でもある安全性の高い潜熱蓄熱材(PCM)を採用し、使用用途によって選択できます。

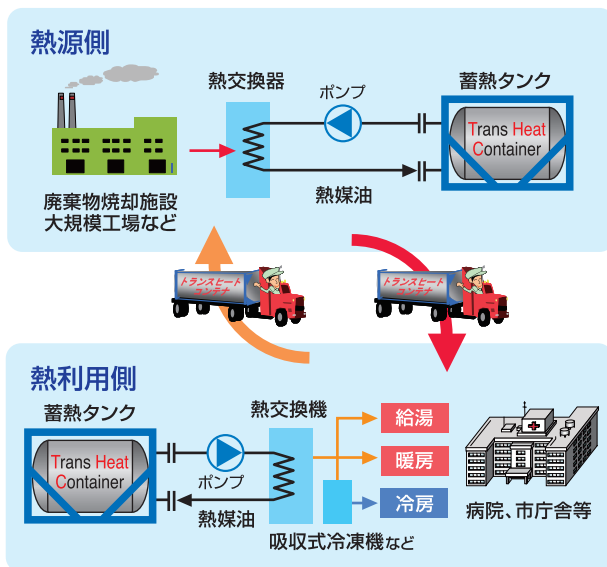
■定置式にも対応

同一施設内に熱源と熱の利用先がある場合、排熱を蓄熱タンクに蓄え、時間をずらして給湯や空調のエネルギー源に利用できます。夜間や土日などの排熱が発生しない時にタンクに蓄えた熱を利用することができます。

■国内クレジット制度の排出削減方法論に承認済

国内クレジットとして利用可能です。(方法論番号018:回収した未利用の排熱を供給する蓄熱システムの導入)

システム概要図



潜熱蓄熱材

PCM種類	融点 ℃	熱源施設		熱利用施設
		推奨熱源温度 ℃	供給可能温度 ℃	利用用途
酢酸ナトリウム 三水和物	58	90程度以上 (min70)	50程度以下	給湯 暖房
エリスリトール	118	150程度以上 (min130)	110程度以下	給湯 暖房 冷房

*ただし、minの場合、蓄熱に長時間要する

導入実績表

No.	場所	形式	PCM	コンテナ
1	鳥取	定置	酢酸ナトリウム(58℃)	2台
2	青森	輸送	エリスリトール(118℃)	2台
3	青森	輸送	エリスリトール(118℃)	1台追加(計3台)
4	岐阜	輸送	酢酸ナトリウム(58℃)	2台
5	沖縄	輸送	エリスリトール(118℃)	3台



鳥取



青森



岐阜



沖縄